



西浮通信

令和6年1月31日
NO. 399
東京都北区立西浮間小学校
校長 小島 みつる

願いを実現するために

副校長 富田 暁子

日本の宇宙航空研究開発機構（JAXA）は、1月20日未明、月探査機「SLIM（スリム）」が月面着陸したと発表しました。探査機が月面に軟着陸することはとても難しく、着陸は成功したものの、着陸後すぐは、太陽電池の発電ができていないことが確認され、太陽電池の発電によって任務を続ける計画は危ぶまれていました。そこで、太陽電池に太陽光が当たるようになれば、発電の可能性があると日本の技術者たちは再び宇宙船が動き出せる可能性を残せるように通信システムを万端に準備したそうです。月の昼間は地球の時間で言うと約2週間。月の朝の光を浴びて、発電が始まり宇宙船が動き出す月の夕方になるまで待っていたところ、ついに1月28日「SLIM（スリム）」は動き出したと報じられたばかりです。

実際に探査機が月面着陸に成功するまで、どれだけ多くの計算をしてきたことか、どれだけ多くの試行錯誤をしてきたことか、途方もないチャレンジの積み重ねが思われます。JAXAの方々の探査機着陸成功への思いの強さ、失敗の可能性をリカバリー（復旧）する周到さに感嘆してしまいました。《JAXAより》

『すべての物事は願望から生まれ、心からの願いはすべてかなえられる。人間は、心がけたとおりになるものである。』（エルバート・ハバード）という言葉があります。自分の楽しみに使う時間を作る、といったささいな願望であっても、その願望はどんどん成長し、大きな力をもつようになります。だから常にポジティブに考えることが大事なのであり、良いことを早く実現したいのなら、そのことについてたくさん考えるべきで、『願望』は集中することで実現できるとする考え方です。さらに自らの注意をすべてそれに注ぐと、ポジティブな感情だけを感じるようになり、その結果、素早く実現できるようになる、と説明されています。

西浮間小学校の子供たちの様子からも「～できるようにになりたい」という願望が実を結びつつある姿が見られています。外国語活動の学習では4年生がパフェを完成させるゲームを通して英単語や“What do you want?”の言い方を知り、覚え、活動をしていました。集中してAL Tの発音をよく聞き、聞き取れると英語で言う様子が見られました。また、6年生の外国語の授業では、自分の思い出に残る学校行事について、一人一人が英語でスピーチをします。そのために、英語での言い方をAL Tに尋ねたりこれまでに習ったことを思い出したりして学習が進んでいます。失敗を恐れずどんどん話せる6年生は英語担当の先生からもスピーチ上手と太鼓判を押されています。学年の終わりが見え始めたこの時期にできるようになったことが目に見えていることは子供たちは大きな自信を得ていることでしょう。

「願いが叶う、叶わない」は自分の能力よりも、自分の思いが決めるということではないでしょうか。今年度の始めにどんな自分になりたい、と願ったでしょうか。「どうせ、あと2か月だし、頑張っても大して進歩しないだろう。」と思えば、結果もその程度しか引き寄せられないということです。「あと2か月もある。まだやれるぞ。」と考えれば、結果は違ってくるでしょう。子供たちの力だけでは、時につまづいたりあきらめてしまったりすることもあるかもしれません。そこで、私たち大人が先の世界や幅の広がりを見せることでまた、ポジティブに考える力が湧いてくるかもしれません。子供の願望が大きな力をもつように、見守り、励まし、ポジティブな言動へと導いていきたいものです。願いが叶うように、言葉を、行動を、ポジティブに変えてみてはいかがでしょうか。

